

僕はどこにでも普通にいるレイプ魔です。
えっ？レイプ魔は普通にいないって？
いやいや、有名AV配信サイトとかを見て下さいよ！
余裕でレイプ物が人気上位にいるじゃないですか！
つまり、レイプ願望を持っている男性はもはや普通レベルに沢山いるわけですよ。

少なくとも、僕の話聞きに来ている貴方は僕と同類なわけですし、同類同士変に正義感ぶる必要はないので、堂々とレイプ好きな性欲を開放しちゃいましょうよ！
僕も、君もどこにでもいる普通のレイプ魔という問題はこれで解決として、僕の自己紹介を少しさせて下さい。
僕のレイプにおけるターゲット層は何歳でもオッケーで0歳～100歳まで、なんでもござれ。
性別が女でオマンコがあれば誰でもレイプのターゲットになります。
もしかしたらこの点は貴方と僕の少し違うところかもしれませんがね。
そんな僕が今回お話しするレイプ体験談は近所に住む80歳のババアをレイプした時のお話です。

よりによってババアをレイプした時のお話を聞きに来るなんて、貴方も大概な性癖をお持ちのようで、僕はそんな貴方のような人、大好きですよ。
もちろん僕も美形で若い女性をレイプする方が興奮はしますよ。
でもババアをレイプするには、それなりのメリットもあるんですよ。
ババアをレイプする最大のメリットは何といっても、無防備で力が弱いこと。
しかもレイプされたことを世間に言っても
「この人はそんな年にもなって何を言ってるんだ？認知症か？」
と、誰も信じようとはしないのも旨い。
だから、独居老人をレイプするのは何気に美味しいのだ。
ババアに対して勃起できるなら、初心者にもオススメだよ！

と、まあそんなわけで僕はその日、近所に住んでいる独居老人の中では比較的容姿の整っているババアをレイプすることにした。
独居のババアをレイプするのはとっても簡単。
来客がないことを確認し、ババアが家の中に入ったところで、侵入すればレイプし放題なのだから。
僕はターゲットのババアの家の様子を近くの路上でスマホをイジルふりをしながら観察。
どうやら来客はなく、庭いじりをしているようだ。
ババアはまさかこれから自分がレイプされるとは微塵も思っていないらしく、薄手の服にノーブラという何とも無防備な服装で花に水やりをしている。
たまに僕の方角を向いてかがむので、ババアの胸の谷間が見える。
そのような光景を見ながら僕は早くレイプしたい気持ちを抑え、ババアが家の中に入っていくのを待った。
30分くらいだろうか？
やっとババアが庭いじりを終えて家に入っていく。

僕はチャンスと見て、ババアや外から死角となる場所から敷地内へ入り、家の周りを探って、鍵の開いているところから家の中へと侵入を成功させた。
このババアは身なりに気を付けて、比較的見た目も良いババアだけあり、家の中もババアの見た目通りにきちんと整理されていた。
家の中の物音を頼りにババアを探す。
どうやら二階にいるようだ。
二階なら逃げられることはまずないだろうし好都合だ。
僕は自分のズボンとパンツを脱ぎ棄て、2階へ上る階段を身を潜めながらゆっくりと上っていく。
なぜ最初からズボンとパンツを脱いでおくのかというと、それはもちろんすぐにレイプできるようにだ。
AVとかだと、これからレイプするっていうのにズボンを履いたまま襲うレイプ魔が多いけど、それでは手間取ってしまい、逃げられてしまうリスクが増えるので、僕ほどになると正直それだけで少し萎えてしまう。
本気でレイプする気があるなら、極力無駄な行為は省いておくに越したことはない。

ともかく、僕は興奮して発情した獣のようにダラダラと下半身から体液を垂れ流しながら階段を上っていく。
二階の廊下に到着すると、物音は奥の部屋から聞こえる。
ゆっくりと奥の部屋の前まで行き、ドアの隙間から中を伺い見る。
そこではババアがタンスの中身を整理していた。

僕の方に年の割にキチンと張りのあるお尻を向け、僕のことを誘っているようだ。どうせここからなら多少暴れられても問題ないので、僕は部屋のドアを一気に開けてババアのいる部屋に飛び込んでいった。

不意に後ろから見知らぬ男性が入って来たことでビクッとして無防備状態のババア。

そんなババアに対して僕は

「今から貴方をレイプします。お婆さんだろうとオマンコはついているでしょ？しかも何度中出ししても妊娠しないからやり放題だし。」

とわざと恐怖心を煽る言葉を投げかけた。